

オープン市場短信 (2007年8月)

2007. 8. 10

◆7月のCP市場動向

7月のCP新規発行額は、前月に引き続き期落ち（約5兆5,000億円）を大幅に上回る6兆5,000億円強となった（除く、ABCP・金融機関発行CP）。これは、多くの企業がCPによる資金調達を積極的に活用する方向にあることが背景となっている。業績の好調さから投資活動等に伴う企業の資金調達ニーズが高まる中で、短期資金調達のツールとしてのCPの使い勝手のよさや銀行借入などに比較して低利で調達可能な点について認識が高まってきているのだろう。

発行レートは、月初8月の利上げ観測が後退したことで、期越え2M物までのレートが弱含みとなり、特に1M物は短国レート対比割高感があったことなどあって、レートは低位で推移した。

《銘柄別の発行レート》

7月のCPレートレンジ

単位 %

格付	1ヵ月		2ヵ月		3ヵ月	
格付 a-1+(オペ適格)	0.568	～ 0.612%	0.651	～ 0.711%	0.711	～ 0.739%
格付 a-1 (オペ適格)	0.559	～ 0.620%	0.655	～ 0.714%	0.722	～ 0.780%
格付 a-1+(リース銘柄)	0.562	～ 0.601%	0.645	～ 0.719%	0.750	0.754%
格付 a-1 (リース銘柄)	0.584	～ 0.634%	0.664	～ 0.719%	0.745	～ 0.820%
格付 a-2	0.604	～ ケ0.90%	0.674	～ ケ1.20%	0.797	～ ケ1.50%

《CP オペ》

7月中の期日到来はなく、新規オペも実行されなかった。発行は多かったものの、投資家の運用ニーズも強かったため、転売も順調に進みディーラーの荷もたれ感は少なかったようである。

7月末のCPオペ残高

7月末のCP現先オペ残高・・・2,960億円。

(短期社債・保証付短期外債億円2,945億円/資産担保短期債券15億円)

《ABCP》

7月末のABCPの発行残高は、前月比約3,577億円減少して約4兆1,786億円となり、前年同月（4兆1,165億円）とほぼ同水準であった。

《短期社債残高》

証券保管振替機構発表によると、短期社債の7月末発行残高は前月比約6,875

億円増加し、21兆7,679.12億円となった。月末時点の残高としては、06年1月末（21兆9,632.56億円）に次ぐ過去3番目の高水準を記録。

内訳は、事業法人が前月比約8,162億円増加、電力・瓦斯、鉄鋼、その他金融が過去最高の残高を記録するなど多くの企業が発行を増やしており、前月比マイナスとなったのは4業種に止まった。一方、前月四半期末要因で増加したABCPは減少、銀行CPも前月に引き続き減少した。発行登録企業451社中、既発行企業は422社となった。

《現先市場》

月中現先レートは、インターバンク市場、レポ市場と同様に資金のだぶつきによって、レートが低位で推移した。月前半は0.53~0.58%、後半は0.52~0.56%の出合いとなっていた。

◆8月のCP市場動向

8月中のCP償還額は、前年（約4兆6,000億円）を上回る約5兆1,500億円となっている（除く金融機関発行CP・ABCP）。8月も、前月に引き続き季節的要因も手伝って企業の資金調達ニーズが旺盛なため、償還を上回る発行となるだろう。

7月の日銀金融政策決定会合では、8対1の賛成多数で現状維持となった。8月22・23日開催予定の日銀金融政策決定会合については、米国のサブプライムローン問題が懸念材料となってきており、8月の利上げ実施見通しにやや不透明感が出ているが、短国入札レートやセカンダリーレートが上昇しており、利上げが実施されるとの見方が優勢となっている。発行金利は0.25%の利上げ幅を意識した上で、利上げ実施時期についての思惑によって、出合いの水準が決まっていこう。したがって、9月期日物は0.70%前後~0.80%割れでの出合いを予想。期越物は、期越え要因も含めてT i b o r レートを上回り、0.78~0.88%近辺での出合いが予想される。

《CPオペ》

8月中の期日到来は、8日2,960億円であった。需給関係も含めた総合的な判断によって、オペ実施の有無が決定されることになろう。

《現先市場》

足元現先レートは前月から低位で推移していたが、準備預金の新しい積み期間がスタートするとインターバンクレートやレポレートが引締まり、足元現先レートも強含みに転じると思われる。月中現先レートは、S/N物で0.52~0.62%、ターム物は0.54~0.65%の水準での出合いをそれぞれ予想する。

（松倉）

参考資料

業種別残高内訳

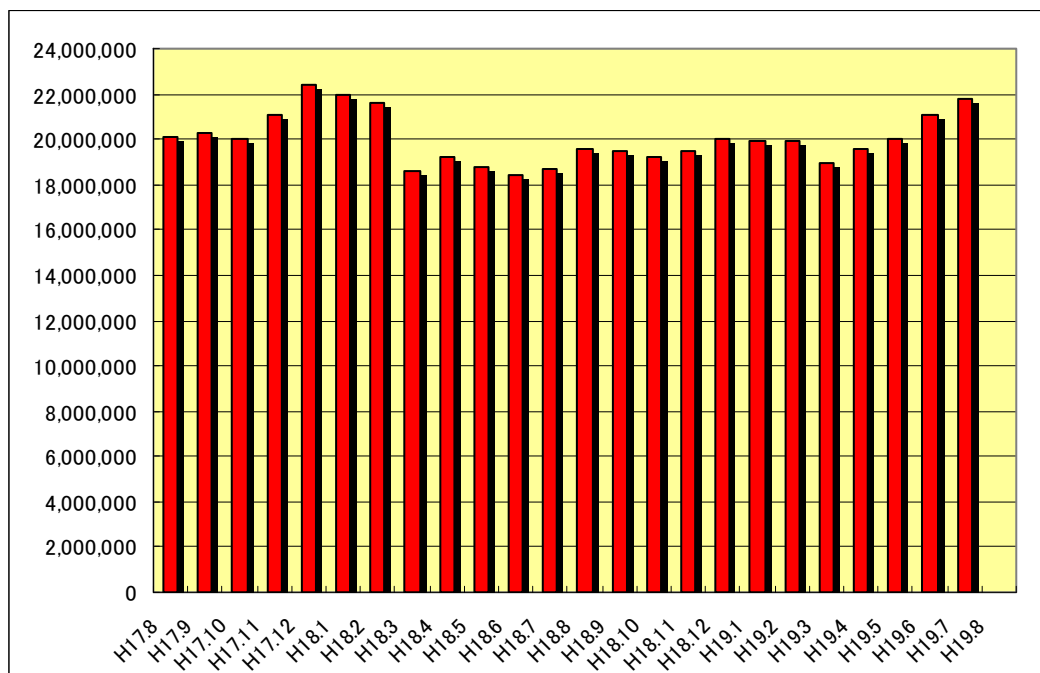
業 種	7 月末残高	6 月末残高	増減
事業法人	73,201	65,039	8,162
その他金融	76,040	73,530	2,510
金融機関	26,653	26,872	▲219
(銀行等	13,290	14,675	▲1,385)
(証券	13,363	12,197	1,166)
ABCP	41,786	45,363	▲3,577
計	217,679	210,804	6,876

(注:買入消却分含む)

短期社債月末残高 (H17年8月~H19年7月)

7 月末発行残高 : 21 兆 7,679.12 億円

発行登録企業 : 451 社 (発行実績あり 422 社)



7月末発行残高ベスト20

(単位:百万円)

	発行企業名	7月末残高
1	オリックス	905,400
2	三菱UFJリース	877,200
3	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	650,620
4	エイベックス・ファンディング・コーポレーション	540,550
5	東京電力	512,000
6	フォレスト・コーポレーション	492,307
7	日産自動車	450,000
8	三菱UFJニコス	418,000
9	住友信託銀行	417,800
10	アルカディア・ファンディング・コーポレーション	402,900
11	みずほ証券	361,100
12	新日本石油	356,000
13	ミレニアム・ファンディング・アセット	350,280
14	住商リース	338,000
15	興銀リース	332,000
16	GE ジャパン・ファンディング	327,010
17	東京リース	318,400
18	日産フィナンシャルサービス	300,000
19	みずほコーポレート銀行	299,100
20	三菱商事	280,000

参考出所 (株) 証券保管振替機構